

五パーセント——経済協力開発機構（OECD）が予測した、現在から一九八〇年代中頃にかけてのカナダ経済の状況である。この予測には、今年六月の石油価格の大幅上昇は考慮されていない。

今後一年間におけるカナダの経済成長率については、OECDは当初五・五パーセントと見ていたが、石油価格の高騰もあつて、三パーセント前後になりそうだとしている。

カナダ経済研究所が七月中旬に発表した予測でも、カナダが「かなり長期的な低成長・高インフレ期に向かっている」ことが指摘されている。同研究所では、今年の実質GNP成長率を三・三パーセント、来年は一・四パーセント、インフレ率は今年九・二パーセント、来年九・〇パーセント、失業率はそれぞれ七・八パーセント、八・二パーセントと予測している。この予測は、前政権の経済政策が続くという仮定でなされたもので、クラーク政権の政策によってはかなりの変更があるものと考えられる。

一方、米国のビジネス・アメリカ誌は、米国の景気後退にもかかわらず、カナダ経済は割合順調に行くものとみている。大方の専門家の予測では、カナダ経済のベイスは米国を上回るはずだという。

カナダの農産物貿易 輸出入とも大幅増

昨年のカナダの農産物貿易は、

輸出が一三・二パーセント伸びて四十八億三千万ドル、輸入が一・八パーセント伸びて四十億ドル強に達した。総額八十八億ドルは、記録的な数字である。農産物の貿易黒字は、一五・五パーセント・アツブの八億一千七百万ドル。

輸出額が増大したのは、ドル価格が低下し、カナダの農産物に対する国外需要が高まったため。例えば、穀物の輸出額は一九七七年の二十二億ドルから昨年は二十四億ドルに上昇しているが、これは輸出货量が千七百七十万トンから千八百六十万トンに増えたため。

菜種、メリケン粉などの穀物加工品などの輸出も大幅に増えている。

主な農産物輸出品は、小麦（十九億一千ドル）全体の四九パーセント）、大麦（三億八千万ドル）、菜種（三億七千万ドル）、毛皮・皮革（一億九千万ドル）、繁殖牛（一億六千万ドル）、飼料（二億二千二百万ドル）など。

主な輸出先は日本、米国、欧州共同体で、全体の五三・三パーセントを占めた。最大の市場は八億三千三百万ドル相当の農産物を輸入した日本。

十月九日に議会召集 新政権が施政方針を発表

クラーク政権が誕生してから最初の議会が、十月九日に召集されることになった。

三月末の解散以来、すでに半年もたつているため、懸案事項は山

積している。今度の議会では、新政権の施政方針が明らかにされ、予算案が提出される。一部の重要事項を除くすべての政府資料を公開する情報の自由法案や、進歩保守党が公約した不動産関係ローンの利息に対する税金控除が特に審議の対象になるものと見られる。

ケベック州 英語規制を軟化

ケベック州政府は、このほど、州内での広告および企業活動に関する英語の使用規制をゆるめる、と発表した。

発表によると、本、レコード、フィルムなど文化関係のものについての広告は、必ずしもフランス語だけでなくてもよい。また企業は、仏語のカタログがあれば、英語版をだしても構わない。車も州外では英語のステッカーをつけてもよく、州外に本社をおく会社も英語名が許されることになった。

中国に二十億ドル供与 カナダ産品の購入に

カナダ輸出開発公社（EDC）は、八月、中国銀行に対し総額二十億カナダドルを融通する信用供与協定に調印した。供与資金は、今後五年間にわたつて中国がカナダから購入する物資およびサービスの支払いに当てられる。

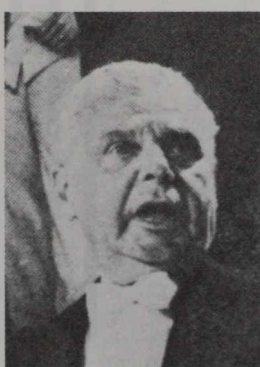
カナダの企業と中国のバイヤーとの間で売買取決めが成立すれば、中国銀行とEDCが信用供与ワックの一部を指定する。代金はEDC

がバイヤーに代わつて、直接カナダ企業に支払うことになる。EDCのジョン・A・マクドナルド会長は、「中国がEDCの資金供与を受入れたことにより、中国に物資およびサービスを輸出しようとするカナダ企業に道が開けた」と語った。

デیفエンベーカー元首相 八十三才で死去

一九五七年から六三年までカナダの首相をつとめたジョン・デیفエンベーカー氏（写真）が、八月十六日、オタワの自宅で亡くなった。いつものように早起きして書斎の寝いすで書類に目を通している最中に倒れたもので、死因は心臓発作。八十三才だった。

デیفエンベーカー氏は威風堂々とした風采と情熱的な演説で知られ、またカナダの自主性を前面に押しだした対米政策や北方開発への意欲、地域格差是正のための政策などは、国民の幅広い支持を受けた。一九四〇年以來ずっと下院議員として活躍し、亡くなったときも現役議員として十月の議会開会を心待ちにしていた。デیفエンベーカー氏は、終生、国民政



治家として親しまれ、首相を辞めたあとも「デーフ」あるいは「ザ・チーフ」と呼ばれて、長老政治家としてのその人気は衰えなかつた。

クラーク首相は、デیفエンベーカー氏を「カナダの歴史を変え、一人一人のカナダ人の持つ弾力性の象徴となつた」と評し、「我々は類まれなる人物を失なつた」としてその死を惜しんだ。また八月十九日に首都オタワで行なわれた国葬には、何万人という人々が参列し、故人に別れを告げた。

デیفエンベーカー氏の在任中に、日加原子力協定が締結され、また第一回日加閣僚委員会が東京で開かれた。一九六一年には、首相自身が日本を訪れ、当時の池田首相らと懇談している。デیفエンベーカー氏は、そのときに池田首相から贈られた富士山の絵をとっても大事にして、自分のオフィスに飾っていた。

イベント

- アルバータ州経済開発大臣が中国訪問の途中来日（九月八日）。
- アルバータ州農務大臣が来日（九月二十四日～十月九日）。
- マイム劇団「ヒヨンド・ワーズ」東京を皮切りに日本各地で公演（九月二十五日～十一月九日）。

- カナダ風景画展、神奈川県民ホール・ギャラリー（十月三日～十四日）。
- カトベット・床材展 東京・池袋サンシャイン・シティのカナダ・トレード・センター（十月十六～二十日）。